

株式会社ジヤパン・ フラワー・コーポレーション



TOP MESSAGE

ここ近年、ベトナムへの注目度はますます高まりを見せています。平均年齢は若く労働資源も豊富です。都市部を中心とした賃金アップにともない、消費も活発化しています。海外進出はゼロからのスタートであり、越えるべきハードルがいくつもあります。全てを自分達だけでやる必要はありません。JETROやJICAなどの政府支援機関は、多くの支援メニューを揃えているので、積極的に活用して欲しいと思います。ただ経営判断にはスピード感が求められます。事前準備の段階で会社としてどのような方向性に進むべきか1つの判断基準を持ってチャレンジしてください。

会社設立・1996年3月
社長・松村 吉章
資本金・5,000万円
従業員数・210人

〒939-0402
富山県射水市流通センター
水戸田2-3-1
TEL.0766-57-1187
FAX.0766-57-1287
<http://www.hanamatsu.co.jp/>



- 1 生花は一定の温度に保たれた冷蔵室内で水につけた状態で保管し、品質を保持している。
- 2 社長は席を設けない。「座っていても仕事にならない」と社風から来ているという。
- 3 近年人気が高まっている「ハーバリウム」の加工も行っている。

思いがけぬ出会いに導かれ ベトナム農業を 支える存在に

1874年、山文青果市場として創業し、台湾バナナの輸入から、時代の変化に合わせて業態を変化させてきた。1990年には小売業に参入し、1996年、生花部門を独立させ『ジャパン・フラワー・コーポレーション』を設立。2000年以降は生花自体を国外から輸入するようになった。

2008年、ベトナムの展示会に訪れた際、流暢な日本語を話すある青年と出会い、ベトナム現地視察へ同行してもらった。様々な産地に足を運び、ダラットの環境が植物の生育に適していることを実感。そして現地法律改正により独立資本での設立が可能になり、2010年『アジア・フラワー・コーポレーション』設立に至った。長年に渡り、花きの小売・卸をメインに取り組んできた経験や、国内の小売店に対して野菜や果物の仕入販売を手掛ける過程で、品質の良い花きの育成ノウハウを蓄積してきた。今では「花」から野菜を含む「農業（種苗）」に生産シフトしており、国内事業との棲み分け

を図っている。

コーヒーベルト地帯として有名なケニアやエチオピア、エクアドルなどは肥沃な土壌や良好な日照環境が整った農業生産適地である。同じくベトナムも、世界有数のコーヒー豆生産国で、国内人口の8割が農業従事者である。当社が進出したダラットも非常に恵まれた土壌環境が整っており、ビジネスチャンスを感じたという。実際にカサブランカやオリエンタルリリーは短期間でベトナム国内トップシェアにまで成長。しかし、花きは農作物の中で最も付加価値の高い品目である一方で、市場価格のブレが大きく収入が不安定でもあり、現地農業従事者にとって大きな問題であった。そうした問題を克服するため、これまで国内で培ってきたノウハウを最大限に活かした農業全般の事業展開を模索してきた。

【知財ポイント】

花きを中心とした品質の良い農作物の育成ノウハウ

【波及効果】

生産性の高い農業を広げるビジネスモデルの構築



5 4

- 4 JFCの代表取締役副社長であり、ベトナム事業運営を担う『有限会社山文』の代表を務める松村光祥氏。
- 5 お客様から頂いた貴重なお言葉をスマイルカード広場に掲出。社員の励みになっているという。
- 6 高い生産効率を誇る当社。「売れるが供給が間に合わない」と悩む販売店の課題解決にも寄与している。
- 7 北陸の店頭で販売されるものは全て本社で加工、包装され、花器や水と販売に必要な資材と合わせて配送。



7

6

広がるビジネスチャンス 国内と海外の強みを融合

ベトナムでの事業に関して、具体的には、当社で扱っている多品種の、品種登録された「種苗」とその生産ノウハウを生かして農業のフランチャイズビジネスを展開している。そうした当社のフランチャイズビジネスにおける最大の特徴は、農業生産方式の知識や種苗の提供、土壌管理といった「農業全般にかかるノウハウを提供する」とにある。特に、種の調達は種苗販売者の信用が無いと困難を極めるため、ローカル企業でその権利を保有する事は難しいのだという。こうした当社ならではの強みを活かし、一定の品質による農作物の生産が可能となり、生産



プリザーブドフラワーを作る様子。専門誌に取り上げられたこともあるほど高い加工技術を誇る。

前でも買付けが入るようになったことから、現地農家は安定収入を得ることが可能となった。

また、2016年から実施されたベトナム政府の5カ年計画において、農業政策の拡充が図られたことや、日系独資法人であるという安心感や信用を享受できたこともベトナム事業の追い風となった。さらに、ベトナム初の農業経済特区プロジェクトに参加した実績が、多くのビジネスチャンスに繋がっているという。実際に日本企業の進出支援やコンサルティング事業の相談も舞い込んだ。独資運営拠点ならではの情報収集力を活かした企業サポートが可能になったことで、現在では当社の重要な一事業として成立しているという。



各店舗で注文を受けた花束や花かごなどの加工も本社で行う。